



## 【取組内容】

- 早くから持続可能な社会を理念に掲げ、**家畜ふん尿肥料による資源循環型農業、バイオガス発電による脱炭素の取組とエネルギーの地産地消による循環型社会**を構築し、食料自給率3,505%、再生可能エネルギー電力自給率1,092%を実現。これらの取組を専門講座や観光ツアー等により共有・発信。
- 賛同者からのふるさと納税で、**子育て・教育・生きがい**を充実させ、**首都圏から若年層を呼び込み、人口のV字回復という好循環**を創出。
- スマート農業や次世代モビリティサービス（MaaS）、リモートワーク等スマート社会実現に向けた取組**を推進。ポストコロナ対応含め、人口減少や首都圏一極集中、地域経済の停滞等の解決に寄与。

## SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性：	酪農による「廃棄物」を資源とする等、「何もない」まちが農業を基盤に課題を解決する姿勢は、他の小規模自治体の見本になる。
包摂性：	医療・介護体制と支え合いの仕組み等で働きがいや生きがいづくりの輪を広げ、誰もが活躍できる機会を創出。
参画型：	町を中心に、医療・福祉法人、ボランティア、サークル団体などが一丸となって、生活の支えあいづくりを進めている。
統合性：	資源循環型農業と食料の自給自足、再生可能エネルギーの地産地消と地域経済の活性化、Society5.0スマート社会の創造等を推進。
透明性と説明責任：	外部機関による検証を踏まえながら施策の磨き上げを実施し、その状況や結果等について議会での議論を経て、町HPで公表。



バイオガスプラント